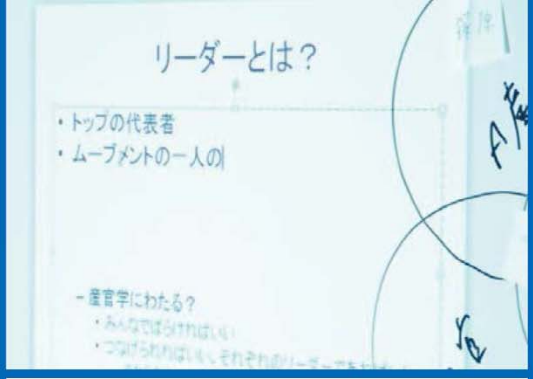
Academy for Global Leadership
Tokyo Institute of Technology

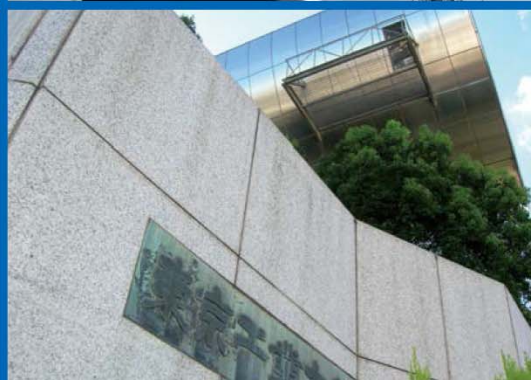


AGL Academy for Global Leadership グローバルリーダー教育院

平成24年度採択　文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」

世界で活躍する
グローバルリーダーを目指して

東京工業大学
Tokyo Institute of Technology



グローバルリーダー教育院とは

科学技術や世界経済が国境を越え、ますますグローバル化が進む 21 世紀にあって、我が国においても、解決すべき政治課題の国際化や企業における事業の海外展開が一層進み、それにともないさまざまな分野でグローバルに活躍できるリーダー人材が必要とされています。

東京工業大学グローバルリーダー教育院（AGL）は、科学技術分野に強みを有する本学ならではの持ち味を活かし、国際的リーダー人材を養成する学位プログラムを有する教育院として平成 23 年 4 月に全学を挙げて設置され、平成 24 年度には文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されました。全研究科より士気あふれる学生を募り、個々の専攻分野における深い専門知識をベースに、そのスキルを他分野の科学技術の発展に活かすことのできる素養、日本や世界における文化の理解と国際性、技術経営に関する知識、コミュニケーション能力、俯瞰力や行動力を備えた、“真のグローバルリーダー”を育成することを目的としています。

アドミッションポリシー及びディプロマポリシー

アドミッションポリシー

AGL は、国際社会を牽引するリーダー人材を育成することを目的としています。したがって、本教育課程に所属する学生には、本学のアドミッションポリシーに提示されている能力に加えて、以下の意思と資質を期待します。

① 自らの知識・能力を、グローバルな視点で公共の利益に資するよう活用して、これからの政治、経済、科学技術・学術を牽引していこうとする気概と積極性
② 自らの知識・能力に自信を持つとともに、他者の知識・能力を尊重し、他者と協働して“こと”に当たることができる協調性

ディプロマポリシー

グローバルリーダー教育課程の修了生には、各界のリーダーとしての活躍が期待されています。したがって、本課程の修了には、在籍する専攻における高度な専門知識・能力の修得に加えて、以下の能力の修得を求めます。

① 自身の将来像を明確に描くことができる俯瞰力
② 自らの専門性を活かして、より広汎な分野に対して合理的かつ公共的に影響を与えることができる応用力と倫理観
③ いまなすべきことを考察できる分析力と情報収集力
④ 他者を尊重しつつ組織をまとめることができるリーダーシップと求心力

教育システム

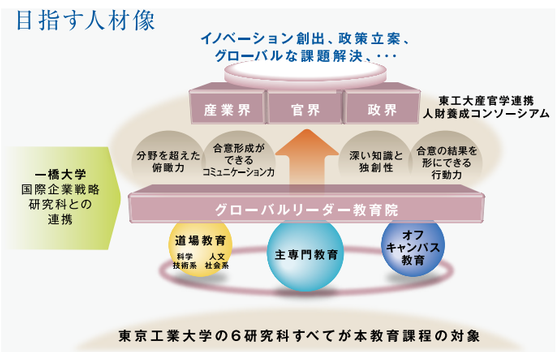
AGL では、「修士・博士一貫教育システム」を採用しています。博士としての卓越した専門能力の獲得と、グローバルリーダーとしての能力の修得を、修学期間内に自らタイムマネージメントしながら両立させます。

本教育課程を志望するには、「リーダーシップ基礎科目群」として指定した大学院教育科目の中から 4 単位以上を修得する必要があります。さらに、2 泊 3 日の合宿による選抜試験をクリアした学生のみが、AGL への所属を認められます。

AGL に所属した学生には、学生同士が互いに切磋琢磨し自己を磨く「道場科目群」が用意されています。道場には「科学技術系道場」と「人文社会系道場」があり、それぞれ科学技術や社会と経済を切り口に、人間力を養います。在籍する専攻における専門分野の高度な知識や能力を修得しつつ、同時にこれら 2 つの道場に所属して、志向や専攻分野を異にする学生同士でディベートやグループワークを重ねていくことで、実社会においていかなる場面でも応用の利く対話力や合意形成力を身につけ、強靭なリーダーシップを発揮できる力を磨きます。平成 25 年度からは一橋大学と連携し、道場で切磋琢磨する学生の専門分野の幅も一層拡大しました。

そしてもう一つ、特徴的なプログラムといえるのが、「オフキャンパス教育」。自身の専門知識や能力、道場で磨きをかけた素養やリーダーシップを実社会で試し、どこまでが通用し何が足りないかを再認識する機会として、海外・国内の企業、国際機関、研究機関などで 6 ヶ月以上のプロジェクトに取り組みます。

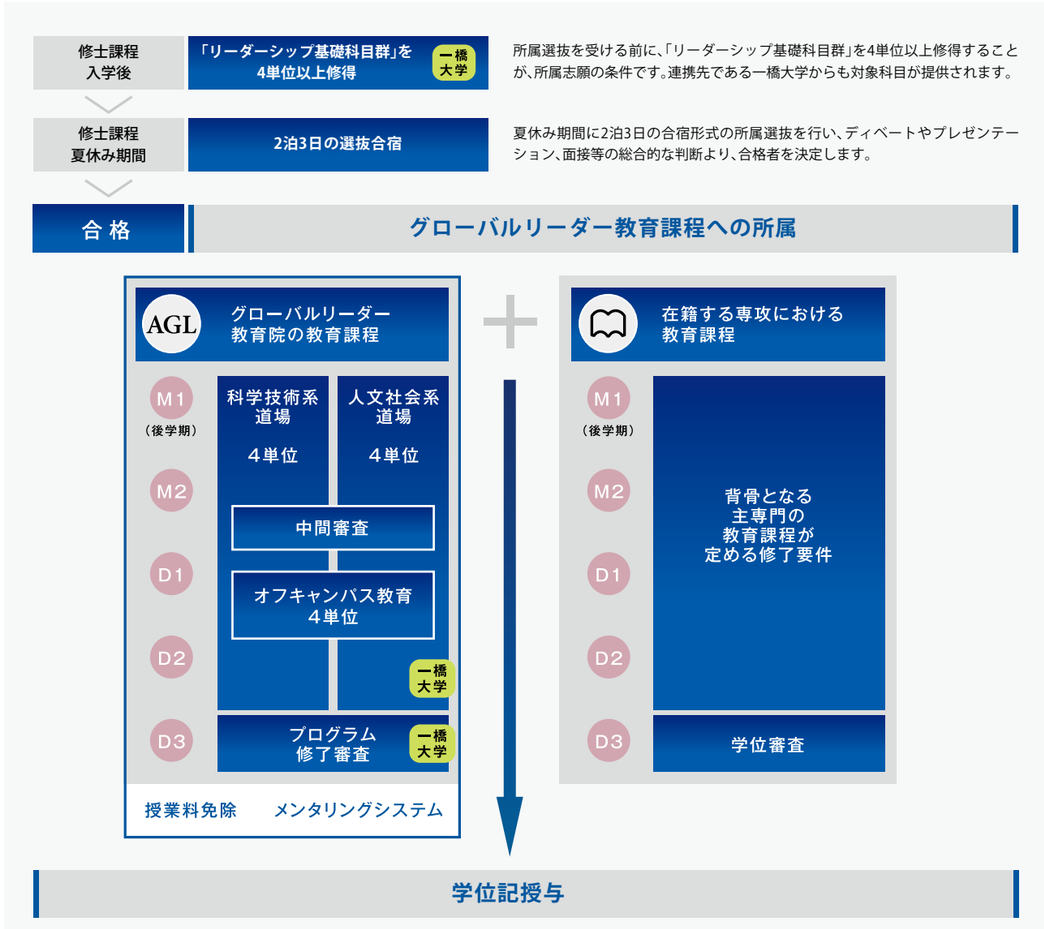
こうしたハードな教育課程で日々能力を高める取り組みに挑む学生をサポートするため、AGL では、所属後の授業料を全額免除する（ただし、標準修業年限以内）とともに、奨励金などでの経済的支援を行います。また、専門分野での研究や道場等における人間力養成で学生自身が主体的に行う活動を支援するため、教育研究費の支援制度も用意されています。さらには、メンターやキャリアアドバイザーを配置して、本教育課程修了後のキャリアパスを確実にし、将来への不安を軽減する仕組みも整っています。



所属選抜と厳正な中間・修了審査

AGL への所属を志望する修士課程学生は、所属前から基礎となる人間力を高めるため、グローバルリーダー教育課程科目として開講している「リーダーシップ基礎科目群」を履修し、4 単位以上を修得することが必要となります。その上で、夏休み期間に 2 泊 3 日の合宿形式の所属選抜に参加・合格することが、本課程所属の条件となります。

所属選抜に合格した修士課程学生は、グローバルリーダー教育課程の博士進学候補者となり、後学期より本課程での教育が本格的に開始されます。所属後は、在籍する専攻の博士課程進学時に AGL でも中間審査が行われ、AGL 所属生として十分な活動がなされているか、修得すべき能力を備えてきているかを厳正に審査されます。中間審査において、継続して所属を許可された所属生は、グローバルリーダー教育課程博士進学者となり、最終的に本課程のプログラムを修得し、語学力を含めた到達目標を達成した学生のみが修了生として、本課程の修了を付記された特別の学位記を受け取ることができます。



人間力基礎

AGL 所属希望者は所属選抜に臨む前に『人間力基礎（必修科目）』を履修し、AGL で学ぶために必要な心構え、主体的姿勢と対話・コミュニケーション力、構想力、企画力等の基礎的な能力を身に着けます。授業では、多様な考えを共有する場づくりの基本理念と、意見を引き出し掘り下げる手法などに加えて、それぞれの学生の主体性を引き出しながら、AGL 道場のグループワークのみならず、研究・ビジネスなど、受講生の今後のキャリア形成においてさまざまな場面で必要となる基礎力の向上に努めています。個々のニーズや課題に対応する授業を行うために、学生の声を常にフィードバックしながら学習内容をデザインしています。

重藤 さわ子・豊田 光世

グローバルリーダー教育院５つの特徴

特徴 1
全学を挙げて取り組む教育院

グローバルリーダー教育課程では、さまざまな分野で国際的リーダーとして活躍する人材を輩出することを目的に、科学技術分野に強みを有する東工大ならではの持ち味を活かし、全学を挙げて設置した学位プログラムを構築・提供しています。平成 25 年度からは一橋大学と連動したプログラムも始まりますます充実度を増した教育環境のもとで、高度な能力や資質を修得できます。

特徴 2
道場教育

道場には『科学技術系道場』と『人文社会系道場』とがあり、その教育は「社会で今、どのようなことが課題になっているか」をテーマに、外部講師からレクチャーを受ける『導入』、その内容を踏まえて学生同士でディスカッションを行い、「自分たちに何ができるのか」を議論していく『グループワーク』、導入・グループワークで身に付けた幅広い知識と能力に基づき、実社会にインパクトを与える施策や概念を提案するプロジェクトの実践に取り組む『修了プロジェクト』の３つの段階から構成されます。また、道場はキャンパス内での教育にとどまらず、実社会・国際社会を舞台とする道場エクスカーションも実施され、ディベートやグループワーク等を通じさまざまな専門を有する学生同士が切磋琢磨して議論を戦わせながら、実践で通用する専門力や人間力を身に付けます。

《導入内容例》

科学技術系道場
- 福島原発事故に学ぶ／３現でみるこれからの日本
- オープンデータとビジネス創出

人文社会系道場
- デザイン思考／未来洞察ワークショップ
- プロジェクトマネジメント

《グループワーク内容例》

科学技術系道場
- エネルギーベストミックスの仮想シミュレーション
- ソーシャルメディアの Big Data 分析

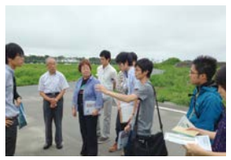
人文社会系道場
- 事業創造・顧客開拓実践ワークショップ
- エネルギー供給の方法を考える ―森林資源の活用（供給サイド）・木質資源利用（需要サイド）・技術の事業化（事業採算性）

《修了プロジェクト実施例》

- チーム志向越境型アントレプレナー育成プログラムと共同で、世界的に有名な「Startup Weekend」を本学に誘致。オーガナイザーとして、スポンサー集めから企画・運営に至るまでを主体的に担う。

《道場エクスカーション実施例》

- 福島研修―復興事業の実情視察と課題を考える
- スタンフォード大学 d.school 研修―デザイン思考に基づくイノベーション
- インドネシア研修―インドネシアと日本の将来の関係を考える
- 大連研修―中国における新興ビジネスを考える
- インド研修―発展するインド社会との連携を考える
- ハーバード大学研修―Negotiation and Leadership プログラム



《道場エクスカーション関連イベント》

- d.school,comes,to,Tokyo,Tech―デザイン思考に関する講演会と２日間のワークショップ（「自由が丘を魅力的にする」プロジェクト）

特徴 3
オフキャンパス実習

《実習実績》平成 24 ～ 26 年度

- シドニー工科大学における日本文化理解促進プロジェクト
- ベルリン自由大学における環境政策に関する調査プロジェクト
- 光学機器メーカーにおける有機 EL 光源開発プロジェクト
- カリフォルニア大学バークレー校を拠点とした科学技術政策に関する調査プロジェクト
- ケニアでの再生可能エネルギーによる地方電化推進のための人材養成
- スタンフォード大学における紛争解決手法に関する調査プロジェクト
- 国際コンサルティングファームにおける新規事業開拓支援プロジェクト
- ゲーテ大学におけるベンチャーファイナンスに関する調査プロジェクト
- 気象ビジネス企業における新規ビジネス開発プロジェクト

《実施者の声》

私の専門は都市気象です。これまで、研究という観点で気象を学んできましたが、博士課程卒業後の進路を決める前に、ビジネスという観点で気象と社会の関わりについて学びたいと思い、民間気象会社で３ヶ月間のインターンシップを実施しました。

データ解析では、テーマは研究とは異なりますが、複雑なデータからいかに有意な特性を引き出すかという点で、本質的には研究と共通していたため、研究における解析の視点や解析手法を適用することができました。博士課程で学ぶ専門特化型の知識そのものの汎用性は高くありませんが、物事の解釈における方法（物事の見方、情報整理の方法）は、研究とビジネスで共通点もあるのではないかと感じました。

今回のインターンシップでは、ビジネスにおける気象情報の活用可能性とその活用可能性を広げる面白さに触れる機会を多くいただきました。この様な貴重な機会を提供して下さった受入先企業に感謝致します。

（『気象ビジネス企業における新規ビジネス開発プロジェクト』実習生）

《実施者の声》

2014 年９月末から 12 月中旬まで３ヶ月弱の期間、国際協力機構（JICA）ケニアの再生可能エネルギーによる地方電化プロジェクトで籾殻ガス化発電の社会・経済面の実現可能性調査などを行いました。

これまで途上国を含めて 20 カ国近く訪問した経験がありましたが、今回の滞在が最も長く、しかも初めてのサブサハラ・アフリカ地域ということで、業務外でも多くの学びがありました。週末はイベントに参加するなどして積極的なネットワーキングを心がけ、民間企業の駐在員や同世代の海外青年協力隊員、世界銀行や国際 NGO の職員、現地採用者、起業家、フリーランスなど多様なキャリアを持つ方々に会い、たくましい生き様や既成概念が壊れるほどユニークな経験に大いに刺激を受けました。

これから大きな変化を遂げていくであろうアフリカ・ケニアの地に滞在し、東アフリカ地域の国際関係や食文化、宗教観、言葉では表現しつくせない細々とした社会状況を肌で感じた経験は今後の糧になると信じています。

（『ケニアでの再生可能エネルギーによる地方電化推進のための人材養成』実習生）

《オフキャンパスコーディネーターより》

AGL におけるオフキャンパス実習は、基本的には通常の中・長期インターンシップと類似の活動です。しかしながら、「学外において学習することを目的としている」ということが体験を主眼とする通常のインターンシップと異なる点です。従って所属生は、学習目標を明確にした上で、その目的実現に対して適切な実施組織を自ら探すことからスタートしますし、この部分は非常に重要な位置づけです。これからグローバルリーダーとして活躍しようとする際には、自らレールを敷き、それにそって適切に行動することが重要であり、敷かれたレールの上を走るだけでは意味がないからです。ただし学生にとっては不慣れな点が多いので、この部分からサポートしますので相談してください。

オフキャンパスコーディネーター

特徴 4
研究費・研修費

《教育研究費支援実績》平成 24 ～ 26 年度までの実績

申請件数：研究費 29 件、研修費 28 件
給付件数：研究費 13 件、研修費 17 件

特徴 5
メンタリング、キャリア相談

《メンターからのメッセージ》

自らの専攻の教育課程と AGL の教育課程を両立するという挑戦を続ける所属生の皆さんの前には、予期せぬ困難が立ちはだかることもあるでしょう。そのような時は一人で考えこまずに気軽に、あるいは思い切ってメンターに相談してみませんか。メンターはみなさんの話に耳を傾け、様々な側面から解決を導くサポートをいたします。生活や研究の心配事から将来のキャリアパスまで、ひとりで抱え込まずにどんなことでも相談してください。皆さんが自ら考え、気づき、判断し前進していけるよう応援いたします。

また、メンター室では「AGL カフェ」を毎日午後開いています。ソファでリラックスしながら AGL の先輩や関係者から研究のアドバイスをもらったり、道場のプランを練ったり。AGL 内での縦と横のネットワークもサポートしています。

AGL メンター　吉本 惠子・笠井 直子

教員からのメッセージ

教育院長
佐藤　勲

AGL という理想の環境を活かすのは学生自身です！

グローバルリーダー教育院は、東工大の総力を結集し、さらには一橋大学とも連携して、産官学との緊密な協力関係のもと、社会が求めるグローバルリーダーを文理の壁を越えて育成することを目指した学位プログラムです。そのための教育体系として、「道場」や「オフキャンパス教育」などの学びの場を学生に提供し、一定期間の中で世界とわたりあえる能力を修得できるよう力を注いでいます。

しかしながら、AGL は何かを一方的に教え込むところではありません。むしろ、学生自身が積極的に「グローバルリーダー教育院」という環境を活用して、自らが目指すリーダーとしての素養やキャリアを掴み取ってほしいと願っています。そのための「道場」であり、「オフキャンパス教育」であるということを常に意識しながら AGL のプログラムに取り組むことで、必ずや道は開けるでしょう。我々は、そんな学生を全面的にバックアップするとともに、そのための理想の環境を提供していきます。

科学技術系道場

AGL の「道場」は、グローバルリーダーの育成を目標に、専門分野の垣根を超え、学生同士が互いに「切磋琢磨」する場であり、人間としての成長が期待されています。人間は考える葦であり、考えることの起源は「ものつくり」と結び付いています。道具や「もの」をつくることにより、人間の脳は飛躍的に進化したといえます。「切磋琢磨」の言葉も「ものつくり」に由来したものです。そこで、本道場では「ものつくり」の基本について実際に経験し、理解するとともに、グループワークで具体的な製品開発やビジネスモデルの構築について挑戦する場を提供します。

科学技術系道場主 特任教授　齋藤 義夫

本道場では、イノベーションを実際に具現化して世に出す、アントレプレナーシップを体現することによって、成功したリーダーを外部講師として招き、講義とディスカッションによって、多様な側面からの精神的コア、知識や見方、メソドロジーを培う機会を提供します。また、今後さらに重要性を増す、Big Data 分析に関するスキルを涵養します。特に、インターネットが Google の出現によって、ユーザーが求めているソリューションを検索するようになったように、Facebook やブログ、Twitter のようなソーシャルメディアの中に、ビジネスや社会設計のヒントや意味を抽出できる手法やメソドロジーの基礎を獲得します。

科学技術系道場主 特任教授　大隅 規由

人道社会系道場

リーダーシップは何かを議論するより、リーダーシップを発揮して何をするのかが重要です。現状の維持ではなく、新たな理論、新たな市場、新たなシステムの構築、つまり、新たな継続性のある価値を創造することがリーダーシップの本質であり、皆さんに求められている事です。それは、研究活動にも、社会活動にも、共通しています。創造性は、社会との関わりを通して更に磨かれます。常に、自分で考え行動する事を要求される、最新・最強且つ世界レベルの実践ワークショップをメインに、グローバルに通用する個の価値を身につける事を目指します。自分の力で社会を変える、そんな気概を持って、門を叩いて欲しいと思っています。

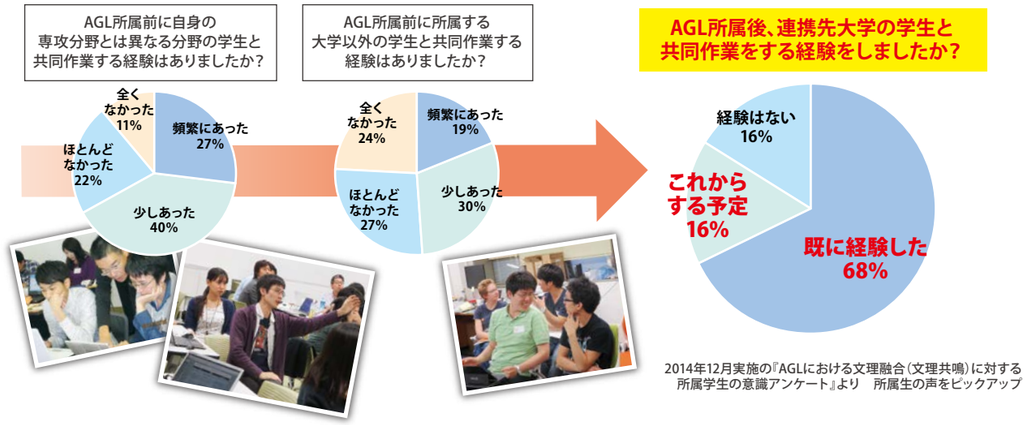
人文社会系道場主 特任教授　山田 圭介

本道場は、学術、経済、文化等のさまざまな組織を牽引するリーダーを養成することを目的とし、専門性やクループワークの対象の幅を拡げるため、一橋大学との組織的連携により教育課程を構築・運営していきます。言語的な能力があったとしても望ましい合意形成や結果を出せるリーダーシップにはいたりません。本道場では実務的なグループワークやプロジェクトの遂行、オフキャンパス教育を通じて、俯瞰力、コミュニケーション力、行動力などを訓練していきますが、同時にリーダーとしての行動規範、自己トレーニングの仕方などを実践的に学ぶ場としていきます。

人文社会系道場主 特任教授　松木 伸男

AGL に所属して（所属生の声）

ー AGL に所属して変化したこと、文理融合から得たこと ー



2014年12月実施の『AGLにおける文理融合（文理共鳴）に対する所属学生の意識アンケート』より　所属生の声をピックアップ

キャリアパスの広がり

AGL の活動を通してビジネスの初歩を知るきっかけを得た。これは今まで全く考えたことがないことなので、本当に興味を持って取り組むことができた。

キャリアパス選択の幅が広がると考える。一橋の所属生と交流をすることで自身の強み、足りない部分をより明確にすることができ、どこで自身の力を活かすことができるか、あるいは生かしたいか考える際に、より広い視野に基づいて検討することができるからである。

キャリア選択の可能性を高めると思います。特に境界領域など新しいキャリアの形も模索できるのではないでしょうか。

自分が想像し得ない世界での働き方や考え方を知ることは、自らのキャリアの幅を広げると考える。

今まで考えていた専門的な分野の中でのキャリアではなく、専門能力を活かしたキャリアもあるのだと、キャリアパスの選択肢に影響すると考えます。

ビジネスの世界では必ず専門性、特性の異なるメンバーからチームを組んで初めて成り立つから、AGL という大学よりもっと社会に近い組織構成における体験は、今後、キャリアの中で大きく役立つと思います。また、起業を考える場合、素晴らしいアイデアも文理融合の環境こそ起きやすく、最適なパートナーは AGL の中で見つけられると思います。自分の専門という狭い世界を超えてキャリアパスを考えるようになりました。

視野の広がり

排他的で無くなることにより他分野の研究者と交流する心理的ハードルが下がる。それによって、複雑な社会問題に対し（研究者・関係者同士の連携により）包括的な解決策を社会に提示できるようになる。

After working with Hitotsubashi Students, it turned out it's more effective for students from different backgrounds to solve one problem together because every student can use their own knowledge to look at the problem itself from different perspective.

様々なバックグラウンドを持つ方々と交流する経験は、将来何かの機会で自分のフィールド以外へアウトリーチする必要があった際、大いに役立つと思います。

自分と異なる、社会の様々な分野に詳しい人と作業することで視野が広がります。

自分と違う感性を持つ人との関わりによって、何に対しても寛容でいられるようになることが期待でき、そのことは人間社会でどんな活動をする上でも強みになると考える。

I had a lot of positive impact through the collaboration, during discussions and usual dojos and even outside the academic walls. Sharing personal ideas and opinions becomes interesting and puts a different spark into our discussion. I believe it is a good way to share my research ideas with individuals with different education background.

立場の異なる人材がそろっていることが前提となる社会への進出に際し、その予行演習となる。

スキルアップ

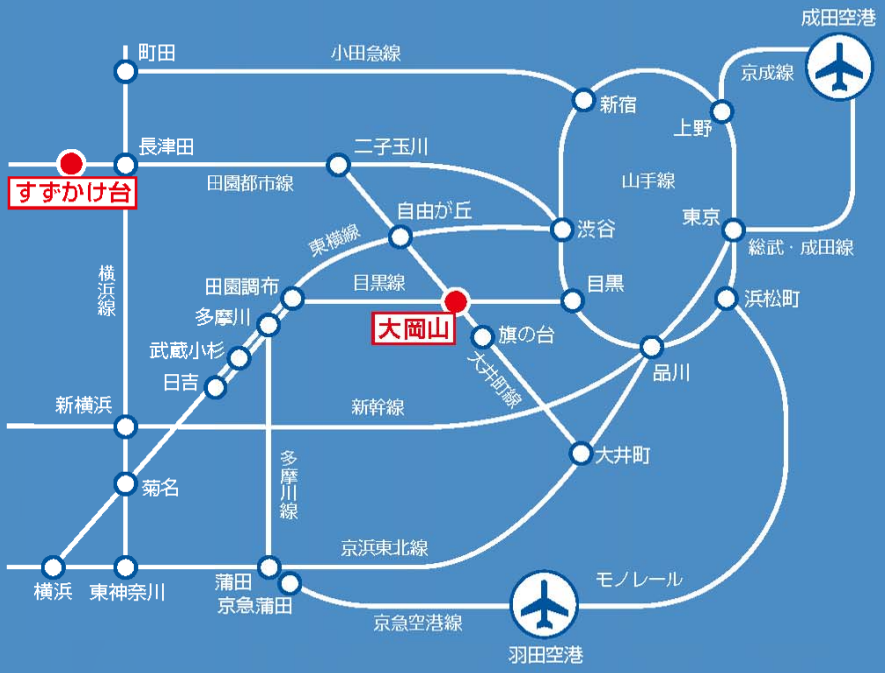
自身のスキルアップや物事の見方を変えるという観点では非常に有効であると考える。

自身の人脈が質・量ともに広がり、技術的な物事への知恵袋が増えた。

違った見方・感じ方、コミュニケーションのはかり方を実体験を通して学べるため、この先様々な局面で合意形成をする際にも生きてくると思う。

専門分野やスキルの異なる人たちの興味や才能を見極め、適材適所となるよう工夫することは、リーダーとしてチームのパフォーマンスを最大限に引き出すため、また、メンバー一人ひとりの満足度を上げるために重要なことであり、その練習を AGL で積めることは、非常に有益であると考える。

ACCESS



大岡山キャンパス

東急大井町線・目黒線大岡山駅下車徒歩1分　羽田空港から約45分、東京駅から約30分

すずかけ台キャンパス

東急田園都市線すずかけ台駅下車徒歩5分　羽田空港から約70分、東京駅から約55分

【問い合わせ先】

国立大学法人東京工業大学 グローバルリーダー教育院

大岡山事務室（大岡山キャンパス南6号館305号室）
〒152-8550　東京都目黒区大岡山2-12-1 S6-17
Tel. 03-5734-3116　Fax. 03-5734-3765

すずかけ台事務室（すずかけ台キャンパスJ3棟308号室）
〒226-8503　横浜市緑区長津田町4259 J3-131
Tel. 045-924-5988　Fax. 045-924-5627

Mail : agl.jim@agl.titech.ac.jp　URL : http://www.agl.titech.ac.jp/